

実現した構造改革特区の例(第18回認定分)

ツワノチョウ

純国産・安全健やか 津和野冬虫夏草酒特区 【島根県津和野町】



津和野町では、主要産業である農業が後継者不足等により低迷している。そのような中、地場資源の活用を目指して産学官連携により蚕のサナギを媒体とした「津和野冬虫夏草」を開発し、町が特許権を取得、現在、栽培、販売を行っている。

今回さらに、町内4酒造業、冬虫夏草製造業者等産学官連携により、この冬虫夏草と地酒を融合させたオール地場産リキュール「冬虫夏草酒」を製造・販売することにより、地域経済・雇用環境の改善を目指す。

＜特産酒類の製造事業＞ 現状（平成19年度）→ 目標（平成25年度）

○特産酒類製造所件数	—	1件
○津和野冬虫夏草の加工品製造・商品化	—	5品目

とうみSunライズワイン・リキュール特区 【長野県東御市】

トウミシ

東御市は、巨峰産地のパイオニアとして、果樹生産に適した地理的、気候的条件を生かし、巨峰を中心としたぶどう、リンゴ等の果樹産地を形成している。

新品目として加工用ぶどうの導入が進む中、これらを活用した自家製果実酒により、新たな地域ブランドの創出と地域振興を模索する意欲的な生産者が増えつつあることから、本特例措置を活用して、特産果実酒・リキュールの製造事業への参入を支援し、地域農業の再興を図る。

＜特産酒類の製造事業＞ 現状（平成19年度）→ 目標（平成25年度）

○特産酒類製造事業者数	—	5件
○農業体験受入数	150人	800人
○観光客数	94.0万人	94.5万人



実現した地域再生計画の例（第11回認定分）

官民パートナーシップ確立のための支援事業を活用した計画 = 8件 うち変更4件

「LEDが魅せるまち・とくしま」推進プロジェクト トクシマシ 【徳島県徳島市】



徳島市は、吉野川など大小138の河川が流れる水の豊かなまちで、市の中心部の新町川と助任川に囲まれた中洲は「ひょうたん島」の愛称で親しまれている。本市は「ひょうたん島水と緑のネットワーク構想」に基づき、ひょうたん島を中心とする水を生かしたまちづくりを進めてきたが、今後は、これまで整備してきた水と緑の魅力に、地域資源であるLEDの「光」の要素を加え、新たな魅力をもつ「水都・とくしま」を創造・発信し、LED関連産業のさらなる集積や集客の拡大を図る。

＜官民パートナーシップ確立のための支援事業＞

- ・LED産業クラスターの形成（市内に事業所を有するLED関連企業数）
15社（平成19年度） → 26社（平成22年度）

地域雇用創造推進事業（新パッケージ事業）を活用した計画 = 7件 うち変更1件

外国人観光客・長期滞在型観光推進計画 フラノシ カミフラノチョウ ナカフラノチョウ ミナミフラノチョウ シムカップムラ 【北海道富良野市、上富良野町、中富良野町、南富良野町、占冠村】

当地域（富良野広域圏）の観光課題は長期滞在型観光地化であり、外国人観光客の集客が重要である。現在、外国人観光客に対応できる専門性の高い人材が不足しており、従来以上に質の高いスキルとホスピタリティーを備えた「コンシェルジュ」的ガイドサービスの確立が急務であり、観光振興と国際化に必要な人材の確保による通年・長期滞在型国際観光地化の実現と地域雇用の拡大を目指す。また、地域の優れた農畜産物を活用し、ブランド化を推進するため新製品の導入や外国人観光客を意識したソフト面の整備や人材育成を実施する。



＜地域雇用創造促進事業（新パッケージ事業）＞

○外国人宿泊者延数	73,514人（平成19年度）	→	117,000人（平成23年度）
○外国人平均宿泊日数	1.60日（平成19年度）	→	2.17日（平成23年度）
○就職者数	9人（平成19年度）	→	72人（平成23年度）

地域公共交通の再編によるまちなかの賑わいと生活福祉の向上計画 ～中心市街地活性化及び胎内リゾートへの誘客促進～

タイナインシ

【新潟県胎内市】

胎内市では、中心市街地の回遊性、郊外に位置する胎内リゾート地域へのアクセスに課題があり、公共交通機関が利用者にとって不便な状況となっている。

そこで、高齢者に優しい利便性の高いデマンド交通を導入して、交通空白地帯を解消するとともに中心市街地の回遊性を高める。また、胎内リゾートへの市内循環型バスを導入してアクセスを高める等、公共交通の確保を通じて、諸問題の解決を図り、合併した新市の一体的な活性化を目指す。

<地域公共交通活性化・再生総合事業等>

今後の取組（予定）

- 平成20年11月・デマンド交通の導入に向けたシステム開発・施設整備の推進
 - ・バス停等の待合い環境整備の推進
 - ・チラシ配布等による公共交通機関利用促進活動（以降継続実施）
- 平成21年 4月・デマンド交通実証運行開始（年度内に見直し調査を実施）
 - ・JR通学者等を対象とした既存公共交通機関ダイヤの見直し
- 平成22年 4月・デマンド交通本格運行開始（以降年度ごとに見直し調査を実施）
 - ・胎内リゾートへの輸送を主体とした市内循環バスの運行開始



中心市街地活性化基本計画

山形市中心市街地活性化基本計画(計画期間:20年11月~26年3月)

目標	指標	現況値(H19)	目標値(H24)
賑わい拠点の創出	歩行者通行量	29,682人	34,000人
街なか居住の推進	中心市街地定住人口	8,684人	9,100人
街なか観光交流人口の増加	街なか観光客入込数	249,869人	400,000人

第一小学校旧校舎保存活用事業

県内初の鉄筋コンクリート造の学校建築である第一小学校旧校舎(国指定登録有形文化財)を保存継承し、福利施設等を整備し、市民の交流の場として再生。



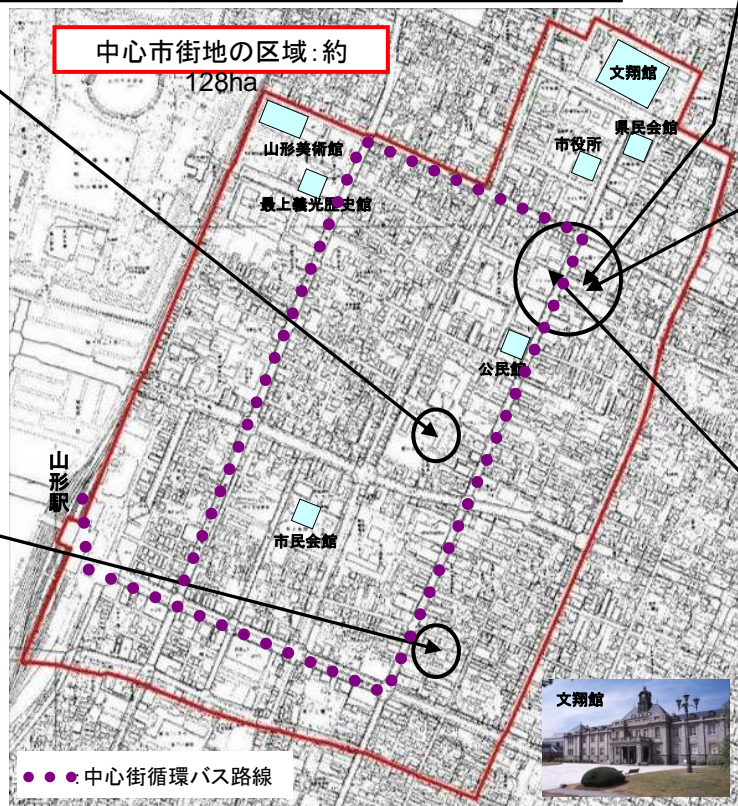
第一小学校旧校舎外観

「山形まるごと館」整備事業

蔵を活用した伝統工芸品や農産物、飲食等の山形ブランドをまとめて体験できる「山形まるごと館」を整備。



山形まるごと館(外観)



七日町御殿堰開発事業

約400年前に整備され歴史的価値がある「御殿堰」を石積みの堰に再生し、これと合わせ、地域資源である蔵を活用した商業施設を整備。



事業イメージ図

七日町第5ブロック南地区市街地再開発事業

老朽化が進む店舗等を再開発により、店舗と医療モールを併設したマンションとして整備。建物の外周に堰を設け、隣接する御殿堰整備事業と一体的に整備し、統一されたまちなみを形成。

(仮称)七日町プロジェクト

大型店が撤退した跡地に、中心市街地のシンボルである文翔館(国指定重要文化財「山形県旧県庁舎及び県会議事堂」)のイメージを基調とする店舗を併設したマンションを整備。



事業イメージ図

山形の地域資源である堰と蔵を活かした商業施設や共同住宅の整備を行うとともに、地域住民がまちなかで過ごせる空間整備等により、人が暮らし、集まり、交流している中心市街地を形成する。

中心市街地活性化基本計画

山鹿市中心市街地活性化基本計画(計画期間20年11月～25年3月)

目標	指標	現況値	目標値(H24)
来街動機を増す	歩行者通行量	4,426人(H19)	5,400人
商業施設等の充実	年間小売販売額	3,654百万円(H19)	4,300百万円

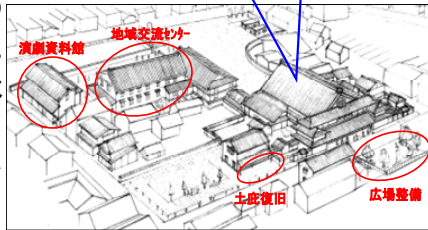
複合商業施設リニューアル事業

設備の老朽化や耐震性に問題ある複合商業施設「プラザファイブ」をリニューアルするとともに、不足業種など各種テナントを誘致し、地域住民の日常生活を支える。

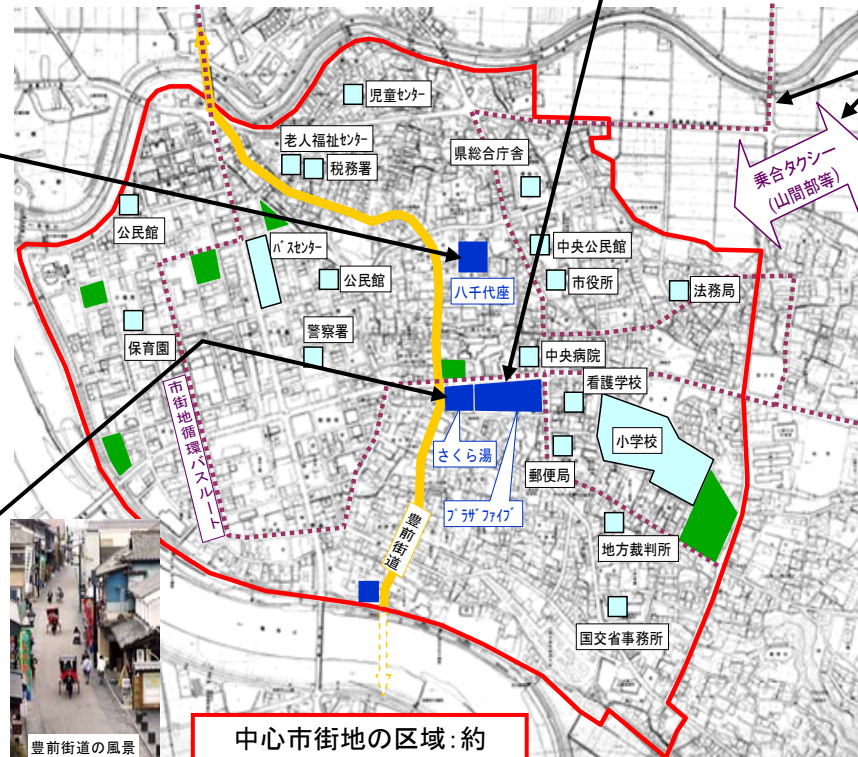


歴史資源の整備・拡充事業

「八千代座」(国指定重要文化財)関連施設として、公演資料を展示する演劇資料館などの整備により休演時も集客を図る。



湯治場「さくら湯」を、懐かしさを感じさせる明治期の姿に再生し、さらなる集客を図る。



公共交通機関拡充事業

民間路線バス撤退エリアや山間地等を中心に、市街地循環バスや乗合タクシーの本格運行を行い、来街者の利便性の向上を図る。



イベントやボランティアガイドの実施等ソフト事業

歴史ある「山鹿灯籠まつり」に加え、「山鹿灯籠浪漫・百華百彩」等各種イベントの開催や、「山鹿市旅先案内人の会」による市街地ガイドを実施。



歴史を感じさせる施設や通りの整備・拡充をおとした個性あるまちづくりと、高齢化に対応した公共交通サービスの充実や商業機能の強化など、地域住民の日常生活空間としてのまちづくりの共存を目指す。